

平成22年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		平和事業の推進		款	3	項	1	目	1	事業	13	整理番号	63				
担当部課名		区民生活部文化・交流課		係名	交流推進担当		連絡先電話番号		2284		昨年度整理番号	62					
上位施策No・施策名		68 交流と平和の推進		予算事業区分				既定事業									
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	1	年度	<input checked="" type="checkbox"/>	実施計画事業	分野	4	政策番号	5	施策番号	3	事業コード	6	<input type="checkbox"/> 行革計画事業	<input type="checkbox"/> 主要事業
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理		区民、関係団体、民間団体		根拠法令等		(1) 杉並区平和都市宣言 (2)									
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか)		○区民一人ひとりが、平和都市宣言の趣旨を理解し、戦争の悲惨さや平和の尊さに対する認識を深め、世界の恒久平和に寄与する。		活動指標名(式)		(1) 平和のつどい開催日数 (2) 後援名義等使用件数									
	活動内容	(事務事業の内容、やり方、手順)		○平和のつどいの実施 ○平和のためのポスター絵画コンクールの実施 ○北朝鮮拉致被害者家族支援 ○平和意識の啓発		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 平和のつどいへの参加者数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 平和のためのポスター絵画コンクール応募者数 算定式・指標の説明等									
区分		単位	19年度		20年度		21年度		22年度		目標値に対する21年度の達成率%	計画に対する21年度の達成率%					
			実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	(目標値)							
指標	活動指標(1)	①	日	16	20	16	20	8	20	40.0	40.0						
	活動指標(2)	②	件	8	10	11	10	14	15	93.3	140.0						
	成果指標(1)	③	人	696	700	670	700	550	700	78.6	78.6						
	成果指標(2)	④	人	652	700	603	700	515	700	73.6	73.6						
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	2,610	3,824	2,113	5,194	4,075	3,238	21年度予算執行率% 78.5							
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項							
	(内)委託費	⑦	千円	189	785	239	565	457	270								
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	0.80 0.00	0.80 0.00	0.80 0.00	0.80 0.00	1.05 0.00	0.65 0.00								
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	7,312	7,240	7,240	7,103	9,323			5,771					
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	0	0	0	0	0			0					
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	9,922	11,064	9,353	12,297	13,398	9,009								
	単位あたりコスト((⑪-⑥)÷①)	⑫	円	620,125	553,200	584,563	614,850	1,674,750	450,450								
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0			0					
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0			0					
都からの補助金等		⑮	千円	/	0	0	0	0	0								
その他の補助金等		⑯	千円	/	0	0	0	0	0								
特定財源計⑬+⑭+⑮+⑯		⑰	千円	0	0	0	0	0	0								
差引:一般財源⑪-⑰		⑱	千円	9,922	11,064	9,353	12,297	13,398	9,009								
受益者負担比率⑬÷⑪		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									

※19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

平成22年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 63

21年度の事業実施状況	内容	規模	単位		事業費(千円)
			単	位	
(1)主な取組み ※(執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	平和のつどい(8月・3月)	2	回		575
	北朝鮮拉致被害者家族支援				2,036
	平和のためのポスター絵画コンクール	1	回		231
	平和事業の連携啓発				1,233
	その他 ()				0
(2)事業実績	「平和のつどい」では区役所で「核兵器のない平和な未来を」と題したパネル展(8月)と平和コンサート(3月)を開催しました。平和のためのポスター絵画コンクールは瑞草区との共同開催で、両区で展示会を行うことができました。また、21年度から「北朝鮮拉致被害者家族支援」事業として「区民のつどい(6月)」、本庁舎を始め地域区民センターを巡回しての写真パネル展、映画会を開催するとともに、年間を通じてブルーリボンバッジの普及啓発を行いました。				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	戦争被害者の高齢化が進んでいるため、戦争の惨禍を風化させずに次の世代に語り継ぐ必要があります。また、核兵器削減にかかる世界情勢が急速に変化しています。			
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	原水禁署名運動発祥の地として、平和都市宣言自治体として、平和の尊さの啓発に取り組んでほしい。			
	今後の予測	核兵器不拡散条約(NTP)再検討会議の進捗など、核兵器の削減に向けた動きが活発化する。一方で、核保有国と非保有国との意見の違いが明確化。核廃絶のための行程の具体化が望まれる。			
事業のあり方点検	(1)施策への貢献度は大きい 貢献度 大(理由→)	左の理由または具体的内容 恒久平和の実現のため、区民の意識を啓発する事業を実施しています。			
	(2)①現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる(②↓) ②成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容→)	区民団体等との協働を推進するとともに、普及啓発の手法を工夫しながら様々な平和事業を実施します。			
	(3)受益者負担の見直し余地は ない(理由→)	平和意識を啓発していくことに受益者負担は適しません。			
	(4)コストを下げる余地はあるか ある[その他](具体的内容→)	事業実施の方法を創意・工夫します。			
	協働等点検	(1)協働等は実現しているか 一部実現している	(2)協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)		
	(3)協働等の形態 協働[事業協力]	(4)協働等の今後のあり方 推進			
評価と課題	平成21年度は「北朝鮮拉致被害者支援」を実施し、公会堂の大ホールが超満員となるなど、大成功を収めました。現在、核軍縮や核の拡散防止の世界的動きが進んでいる中で、本年度もこうした動きを軸として事業を展開していきます。また、戦争体験者は年々減少している中で、杉並区の平和事業の礎である「平和都市宣言」にあるとおり「平和ゆえの幸せを希求し、次の世代に伝える」ことを念頭に、広く意識を醸成する点から「協働」による事業展開を検討していきます。				

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	<input checked="" type="radio"/> 増	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 減	コスト:	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(22年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	21年度は、共感の輪を広げる事業の一つとして、「北朝鮮拉致被害者家族支援事業」を行いました。北朝鮮拉致被害者家族の方々をお迎えしての区民のつどい、写真パネル展、映画上映会、ブルーリボンバッジの普及の取り組みなどの事業を年間を通して実施し、あらゆる世代の区民に関心を持っていただくことができました。また、「核」の問題に少しでも関心を持ち考えていただくために「核兵器のない平和な未来を」と題したパネル展を開催しました。							
	(2)改革案の概要(いつまでに、どうかたちに) ※事業のあり方点検欄を踏まえて記入	22年度は命を育む共感の輪事業として拉致問題の一日も早い全面解決に向けて支援の輪を広げていきます。また、核軍縮や核の拡散防止の世界的動きが進んでいる中で、こうした動きを軸として、21年度に引き続き、核や戦争の悲惨さを「次の世代に伝えていく」ことを念頭に、幅広い世代の関心を高める事業、とりわけ若年層の参加を促進できる展開を視野に入れ、取り組んでいきます。							
	(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	常に、平和に関する世界情勢を敏感に捉えて、事業に反映させます。							
23年度方針	(1)23年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 増減なし	<input type="radio"/> 減	<input type="radio"/> 大幅減	<input type="radio"/> 予算なし		
	(2)理由	22年度予算枠での事業実施を考えています。							

平成22年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		国際・国内交流の推進			款	3	項	1	目	2	事業	3	整理番号	68			
担当部課名		区民生活部文化・交流・男女共同参画課			係名	交流推進担当			連絡先電話番号	3255		昨年度整理番号	67				
上位施策No・施策名		68 交流と平和の推進			予算事業区分							既定事業					
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	元	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業		分野	4	政策番号	5	施策番号	3	事業コード	5	<input type="checkbox"/> 行革計画事業	<input checked="" type="checkbox"/> 主要事業
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理				根拠法令等		(1) 国内友好都市(名寄市・東吾妻町)との交流協定 (2) 国外友好都市(ウイロビー市・瑞草区)との交流協定									
	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○文化・スポーツ・経済等、多様な分野での交流を行う。 ○市民レベルの交流を行い、友好親善を深める。 ○多文化との共生の実現に向け、相互理解を深める。				活動指標名(式)		(1) 国際交流事業参加者数 (2) 国内交流事業参加者数									
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○交流都市(北海道名寄市、群馬県東吾妻町、ウイロビー市(オーストラリア)、ソウル市瑞草区(大韓民国)等)の代表団の受入、区代表団の派遣 ○交流都市が区民を対象に行う生産物即売等各種事業の支援 ○他課・他団体が行う交流事業への支援				成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 友好都市訪問者数・来訪者数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 国際・国内友好都市との交流事業参加者数 算定式・指標の説明等									
区分		単位	19年度		20年度		21年度		22年度計画(目標値)		目標値に対する21年度の達成率%	計画に対する21年度の達成率%					
			実績	計画	実績	計画	実績										
指標	活動指標(1)	①	人	3,331	3,500	3,140	3,500	3,255	3,300	98.6	93.0						
	活動指標(2)	②	人	1,996	2,200	1,858	2,200	2,357	2,200	107.1	107.1						
	成果指標(1)	③	人	785	900	951	900	961	1,000	96.1	106.8						
	成果指標(2)	④	人	1,521	1,800	1,805	1,800	1,676	2,000	83.8	93.1						
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	14,960	13,723	8,163	12,399	7,437	6,692	21年度予算執行率% 60.0							
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 ・区代表団がインドへ親善訪問する予定でしたが、訪問しなかったため、これに関わる経費が未執行となりました。 ・調査研究として「都市と農村の共生事業の検討」の委託費を計上していましたが、交流都市の食材を学校給食で活用するなど、経費の執行を伴わない範囲での事業実施となりました。							
	(内)委託費	⑦	千円	1,386	6,699	2,095	5,101	2,524	947								
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	2.50 0.90	2.18 1.00	2.35 1.00	2.18 1.00	2.28 1.00	2.18 1.00								
	人件費	⑨	千円	22,850	19,729	21,268	19,356	20,244	19,356								
	(内)非常勤職員分	⑩	千円	2,493	2,800	2,800	2,793	2,793	2,793								
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	40,303	36,252	32,231	34,548	30,474	28,841								
	単位あたりコスト((⑪-⑥)÷①)	⑫	円	12,099	10,358	10,265	9,871	9,362	8,740								
	財源	⑬	千円	560	0	0	0	0	0								
	国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0	0								
都からの補助金等	⑮	千円		0	0	0	0	0									
その他の補助金等	⑯	千円		0	0	0	0	0									
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)	⑰	千円	560	0	0	0	0	0									
差引:一般財源(⑪-⑰)	⑱	千円	39,743	36,252	32,231	34,548	30,474	28,841									
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									

※19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

平成22年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 68

21年度の事業実施状況	内容	規模	単位		事業費(千円)
			単	位	
(1)主な取組み ※(執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	瑞草区友好アクション・プログラム				4,009
	国内交流自治体訪問	6	回		1,087
	その他 ()				2,341
(2)事業実績	平成21年5月に交流協定を締結した青梅市とは、近隣交流都市のメリットを生かした市内施設等割引制度や物産展の開催、郷土博物館での吉川英治展の開催など、新たな交流事業をスタートさせました。名寄市とは20周年を記念しての訪問を行い、共同アピールを行いました。各交流自治体とは、「都市と農村の共生」をテーマに、農産物の即売会を中心に交流都市のPRを行いました。国際交流では、杉並区日印交流協会から寄贈を受けたガンジー像を、中央図書館の読書の森公園側に設置し、記念式典を実施しました。				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	国内交流は、平成元年に群馬県東吾妻町(旧吾妻町)、北海道名寄市(旧風連町)を始め、現在は、新潟県小千谷市と福島県南相馬市、福島県北塩原村、東京都青梅市と交流を行っています。また、区役所1階に開かれたコミュニティショップ(交流協会運営)では、区役所開庁時には、交流都市の特産物を購入できます。国際交流では、オーストラリア・ウィロビー市と大韓民国ソウル特別市瑞草区との交流を行っており、それぞれの交流都市との周年事業も実施しています。			
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	小中学生交流や自然体験などの教育分野、物産展や特産物のあつ旋などの産業・経済分野、保養地などの観光分野での交流を進めて欲しいとの要望があります。			
	今後の予測	個人・団体ボランティア、NPOなど民間ベースでの交流が進むと予想される。交流都市からは、特産物の斡旋や物産展の開催、区民を対象とした観光誘客宣伝活動など、幅広い交流事業の展開が求められると予想されます。			
事業のあり方点検	左の理由または具体的内容				
	(1)施策への貢献度は大きいか 貢献度 中(理由→)	友好都市との提携により、定期的・継続的に他都市の住民との交流の機会を作り出しています。			
	(2)①現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる(②↓) ②成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容→)	行政主導の交流推進から、市民レベルでの交流推進を図るためには、協働すぎなみや交流協会による様々な取り組みにより向上が期待できます。			
	(3)受益者負担の見直し余地は ない(理由→)	中高校生交流会における派遣・受入では、一部自己負担を求めて実施しています。			
(4)コストを下げる余地はあるか ない(理由→)	必要最低限のコストで実施しています。また、協働すぎなみによる交流自治体農産物の学校給食利用や出前授業など、安定的且つ継続的に実施するための仕組みを構築します。				
協働等点検	(1)協働等は実現しているか 十分に実現している	(2)協働等の相手 社団法人・財団法人等公益団体((3)へ)			
	(3)協働等の形態 協働[補助・助成]	(4)協働等の今後のあり方 実施継続			
評価と課題	各交流都市の特産物即売会が区役所で行われ、多くの区民が購入に訪れています。これにより交流都市の周知が図られ関心を持つ区民が増えています。今後は、市民レベルの交流の拡充と持続可能な仕組みづくりを行い、交流先団体の地域、経済活性化などの交流を拡充していきます。また、交流都市から杉並区への来訪者を増やす取組で、相互交流の実現を図ることが必要となっています。				

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 減	コスト:	<input type="radio"/> 増	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(22年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	「都市と農村の共生」をテーマに交流都市農産物の学校給食利用、出前学習、ウォーキング交流など新たな交流をスタートさせました。22年度はウィロビー市友好都市提携20周年にあたるため、代表団を招き記念事業を実施するための予算を計上しました。							
	(2)改革案の概要(いつまでに、どうかたちに) ※事業のあり方点検欄を踏まえて記入	これまでの行政主導による文化、スポーツ等の交流のほか、民間の協働すぎなみによる交流都市農産物の学校給食利用や出前授業、ウォーキング交流など、今後安定的かつ継続的に実施するためのしくみを構築する。特に、協働すぎなみを軸とした流通システムの構築やアンテナショップの運営を着実に行うことで、民衆の交流を促進します。							
	(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	交流都市との十分な協議により、意思疎通、共通認識を図り、関連他課との連携、協力も不可欠です。							
23年度方針	(1)23年度予算見積りの方向性	<input type="radio"/> 大幅増	<input checked="" type="radio"/> 増	<input type="radio"/> 増減なし	<input type="radio"/> 減	<input type="radio"/> 大幅減	<input type="radio"/> 予算なし		
	(2)理由	瑞草区と友好都市提携をして20周年となるため、周年事業経費が必要となります。							

平成22年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		杉並区交流協会助成		款	3	項	1	目	2	事業	4	整理番号	69	
担当部課名		区民生活部文化・交流・男女共同参画課		係名	交流推進担当			連絡先電話番号	2284		昨年度整理番号	68		
上位施策No・施策名		68 交流と平和の推進		予算事業区分				既定事業						
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	年度	<input type="checkbox"/> 実施計画事業 分野			政策番号	施策番号	事業コード	<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 主要事業			
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人	<input type="checkbox"/> 世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 団体	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 内部管理	根拠法令等 (1) 杉並区交流協会補助金交付要綱 (2)							
	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○国際交流の推進による多文化共生が構築されています。 ○国内交流において市民レベルの草の根交流が活発に行われています。 ○交流協会が交流事業のコーディネーターとして十分な機能、役割を担っています。						活動指標名(式) (1) ボランティア登録数 (2) 事業回数						
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○杉並区交流協会に対し、交流事業が円滑に行えるように補助金を交付します。						成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 協会会員数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 事業参加者 算定式・指標の説明等						
区分		単位	19年度		20年度		21年度		22年度計画 (目標値)		目標値に対する21年度の達成率%	計画に対する21年度の達成率%		
			実績	計画	実績	計画	実績							
指標	活動指標(1)	①	人	270	300	365	400	448	500	89.6	112.0			
	活動指標(2)	②	回	111	112	112	113	105	110	95.5	92.9			
	成果指標(1)	③	人	951	970	936	950	580	600	96.7	61.1			
	成果指標(2)	④	人	1,475.0	1,500.0	1,235.0	1,400.0	1,295.0	1,300.0	99.6	92.5			
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	32,030	35,136	25,936	33,375	26,267	30,802	21年度予算執行率% 78.7				
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 ・活動指標(1)については、昨年までは、協会会員数としていましたが、ボランティア登録数に変更しました。ボランティアの活用が協会の活動実施のための重要な要素となっているためです。 ・成果指標(1)については、昨年までは、協会会員数対前年度比としていましたが、協会会員数に変更しました。				
	(内)委託費	⑦	千円	0	0	0	0	0	0					
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00	0.02 0.00					
	人件費	⑨	千円	183	181	181	178	178	178					
	(内)非常勤職員分	⑩	千円	0	0	0	0	0	0					
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	32,213	35,317	26,117	33,553	26,445	30,980					
	単位あたりコスト ((⑪-⑥)÷①)	⑫	円	119,307	117,723	71,553	83,883	59,029	61,960					
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0			0		
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0			0		
都からの補助金等		⑮	千円	/	0	0	0	0	0					
その他の補助金等		⑯	千円	/	0	0	0	0	0					
特定財源計 ⑬+⑭+⑮+⑯		⑰	千円	0	0	0	0	0	0					
差引:一般財源⑰-⑬		⑱	千円	32,213	35,317	26,117	33,553	26,445	30,980					
受益者負担比率⑬÷⑪	⑲	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

※19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

平成22年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 69

21年度 の事業 実施 状況	(1)主な取組み ※(執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	内 容	規 模	単 位	事業費(千円)
		交流協会助成			26,267
		その他 ()			0
	(2)事業実績	・ウォーキングツアーや体験ツアーを実施し、交流都市との市民レベルの交流を図りました。参加者:ウォーキングツアー40人、体験ツアー32人 ・杉並区の外国人に対し、日本文化、生活習慣を知ってもらうためウェルカムパーティやバスツアーなどの事業を実施し、多くの人が参加しました。また、外国人と日本人が自由に交流できる場として、国際交流サロンを運営し、外国人と区民が自由に交流する場を提供しました。 外国人参加者:ウェルカムパーティ65人、バスツアー19人			
事業環境 の変化	事業開始当初から 現在までの変化	様々な国籍の方が参加する多様な事業の実施により、国際文化への理解が進んできています。また、農のあるまちへの回帰意識が高まってきており、国内における市民レベルでの交流を望む気運が高まってきています。			
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	多文化を理解し、人と人とがふれあい、体験のできる交流の機会を拡充して欲しいとの要望があります。			
	今後の予測	これまで以上に、行政主導の交流から市民レベルの交流が増え、交流内容も多様化することが予測されます。			
事業の あり方 点検	(1)施策への貢献度は大きい 貢献度 大(理由→)	左の理由または具体的内容			
	(2)①現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる(②↓)	区からの補助金による協会事業は円滑に行われており、区民の交流活動に寄与しています。			
	②成果向上のための方策 その他(具体的内容→)	既存事業の効果を検証し、スクラップアンドビルドにより、区民が求めている、そして時代に即した事業を実施していきます。			
	(3)受益者負担の見直し余地は ある(具体的内容→)	個々の事業内容を精査し、参加費の見直しを図ります。			
	(4)コストを下げる余地はあるか ない(理由→)	平成18年度の協会分離に伴い、専門性を高め組織体制と事業の見直しが図られ、必要最低限のコストで運営しています。			
協働等 点検	(1)協働等は実現しているか 十分に実現している	(2)協働等の相手 社団法人・財団法人等公益団体((3)へ)			
	(3)協働等の形態 協働[補助・助成]	(4)協働等の今後のあり方 実施継続			
評価と課題		多様な事業の実施により、交流事業の推進に寄与していますが、社会状況の変化に合わせた事業内容の見直しが必要となっています。行政主導の交流から市民レベルの交流の活発化のために、交流協会のコーディネート役としての、機能充実が求められています。区としては、交流協会と連携しながら、今後の方向性等について協議していきます。			

改善・見直しの方向(中長期)	成果: ○ 増 ● 現状維持 ○ 減	コスト: ○ 増 ● 現状維持 ○ 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(22年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	コミュかるショップの運営では、売れ筋商品の品揃えや売り場レイアウトの工夫、接客改善など販売増進を図る努力を行っています。	
	(2)改革案の概要(いつまでに、どういうかたちに) ※事業のあり方点検欄を踏まえて記入	区補助金依存度の低減を図るため、協会事業の質や魅力を一層高め、会員及び利用者増の促進を図る必要があります。	
	(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	会員数の減少やサービス利用者数の減少などの課題に対し、ホームページや情報紙での多面的な周知活動を行い、事業のPRと新規会員増を図る必要があります。	
23年度方針	(1)23年度予算見積の方向性	○ 大幅増 ○ 増 ● 増減なし ○ 減 ○ 大幅減 ○ 予算なし	
	(2)理由	経費削減に努めながら、多様な事業を展開し、交流事業の推進に努めていきます。	

平成22年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		子ども国内交流事業			款	4	項	2	目	1	事業	35	整理番号	290
担当部課名		保健福祉部児童青少年課			係名	事業係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	280	
上位施策No・施策名		68 交流と平和の推進			予算事業区分				既定事業					
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	2	年度	<input type="checkbox"/> 実施計画事業		分野	政策番号	施策番号	事業コード	<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 主要事業		
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理			区内在住の小学生(4~6年生)、中学生		根拠法令等		(1) 杉並区都市交流事業 (2)					
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか)			子ども同士の交流を通して、友好都市の文化、生活、風土等の理解を深めることにより、児童の健全育成を図ります。		活動指標名(式)		(1) 参加者数 (2)					
	活動内容	(事務事業の内容、やり方、手順)			○区内在住の小学4年生~6年生を対象に北海道名寄市との交流会(7月8月に3泊4日を2行程、25名)及び、群馬県東吾妻町との交流会(8月に2泊3日、30名)を実施 ○区内在住の中学生を対象に北海道名寄市との交流会(12月に3泊4日、25名)を隔年実施		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 応募者数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 算定式・指標の説明等					
区分		単位	19年度		20年度		21年度		22年度		目標値に対する21年度の達成率%	計画に対する21年度の達成率%		
			実績		計画		実績		計画		実績		目標値(目標値)	
指標	活動指標(1)	①	人	75	55	55	80	72	60	120.0	90.0			
	活動指標(2)	②												
	成果指標(1)	③	人	97	100	138	120	120	100	120.0	100.0			
	成果指標(2)	④												
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	4,812	3,532	3,209	5,610	4,705	3,603	21年度予算執行率%		83.9		
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項				
	(内)委託費	⑦	千円	0	0	0	0	0	0					
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	0.82 0.00	0.76 0.00	0.82 0.00	0.80 0.00	0.64 0.00	0.62 0.00					
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	⑨	千円	7,495	6,878	7,421	7,103	5,683	5,505				
		(内)非常勤職員分	⑩	千円	0	0	0	0	0	0				
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	12,307	10,410	10,630	12,713	10,388	9,108					
	単位あたりコスト((⑪-⑥)÷①)	⑫	円	164,093	189,273	193,273	158,913	144,278	151,800					
	財源	受益者負担分	⑬	千円	0	0	0	0	0	0				
		国からの補助金等	⑭	千円	0	0	0	0	0	0				
都からの補助金等		⑮	千円		0	0	0	0	0					
その他の補助金等		⑯	千円		0	0	0	0	0					
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)		⑰	千円	0	0	0	0	0	0					
差引:一般財源(⑪-⑰)		⑱	千円	12,307	10,410	10,630	12,713	10,388	9,108					
受益者負担比率⑬÷⑪		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

※19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

平成22年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 290

21年度 の事業 実施 状況	内 容	規模	単位	事業費(千円)
(1)主な取組み ※(執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	杉並区・名寄市風連町子ども交流会(夏季)	1	回	2,189
	杉並区・東吾妻町子ども交流会	1	回	326
	杉並区・名寄市風連町子ども交流会(冬季)	1	回	2,190
	その他 ()			0
(2)事業実績	1 名寄市と夏季小学生交流(7月8月にそれぞれの自治体で3泊4日。杉並参加者24名 合計49名) 2 東吾妻町と夏季小学生交流(8月に杉並で2泊3日。杉並参加者23名、合計53名) 3 名寄市と冬季中学生交流(12月に名寄市で3泊4日。杉並参加者25名 合計37名)			
事業開始当初から現在までの変化	名寄市交流、東吾妻町交流とも子ども同士が生活を共にすることで、お互いの文化や生活を知るとい意味で、自治体交流の一端を担ってきました。一時期応募者が少ない時期もありましたが、ここ数年、夏季の小学生交流については応募者数は安定してきています。			
事業環境の変化	参加者のアンケートではどの交流会とも、概ね「よい経験になった」「交流事業は貴重な体験の場」と、前向きな事業評価と事業継続の期待が寄せられています。			
今後の予測	小学生対象の交流会は夏季の名寄市交流と訪問する年の東吾妻町交流は今後も応募者数が定員を上回り、迎える年の東吾妻交流は定員前後の応募者数で推移すると予想されます。中学生対象の冬季名寄市交流は名寄市の応募者数が定員の半分に満たない状況なので23年度からは中止し、夏季に小学生対象と中学生対象を交互に実施する予定です。			
事業のあり 方点検	左の理由または具体的内容			
	(1)施策への貢献度は大きい 貢献度 大(理由→)	交流自治体の子ども同士が生活を共有する事業は、他に見られないものです。		
	(2)①現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる(②↓) ②成果向上のための方策 その他(具体的内容→)	例年の事業を実施していく中で、より子どもたちの実情に合わせ、交流が進むような創意工夫がなされています。 ボランティアの事前の打ち合わせのなかで、適切な集団援助ができるように研修的要素を入れていきます。		
	(3)受益者負担の見直し余地は ない(理由→)	自治体交流であるという点で、現在の宿泊経費と食費相当の参加費が適正と考えています。		
	(4)コストを下げる余地はあるか ない(理由→)	安全管理に直結するボランティア人数確保と費用対効果が考えられている現在のプログラム内容から、コストダウンは難しいと思われます。		
協働等 点検	(1)協働等は実現しているか 十分に実現している	(2)協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)		
	(3)協働等の形態 協働[事業協力]	(4)協働等の今後のあり方 実施継続		
評価と課題	杉並で実施する時の食事作りに、参加児童の保護者に協力を得ることで、自治体交流への理解が深まっています。また、学生ボランティアに協力を得ることで、安全確保が図られています。今後とも安定した人材(協力者)の確保が課題となります。			

改善・見直しの方向(中長期)	成果: ○ 増 ● 現状維持 ○ 減	コスト: ○ 増 ● 現状維持 ○ 減
(1)前年度の改革案の取り組み状況(22年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記) 23年度以降、夏季の名寄市交流会を中学生対象と小学生対象に隔年実施するため、夏季の中学生向けプログラムを検討していきます。		
(2)改革案の概要(いつまでに、どういうかたちに) ※事業のあり方点検欄を踏まえて記入 23年度末までに夏季中学生交流の概要を名寄市側と協議決定をします。		
(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 23年度から、名寄市の特例区廃止にともなう組織的な動向が未確定などがあります。		
23年度方針	(1)23年度予算見積の方向性 ○ 大幅増 ○ 増 ○ 増減なし ● 減 ○ 大幅減 ○ 予算なし	
	(2)理由 隔年実施していた冬季名寄市交流が中止となるためです。	